# Amazon Forecast ハンズオン (No.Codes)

はじめに: Amazon Forecast は AWS が提供している時系列データをもとに予測を行う機械学習サービスです。

### 1. リージョンの選択

本ハンズオンで作業を行うリージョンは講師に確認をしてください。画面右上 の地名を選択すると変更できます。



### 2. 学習用データのダウンロード

https://bit.ly/2Oof8qe

以下のようなクライアントごとの消費電力データが含まれています。

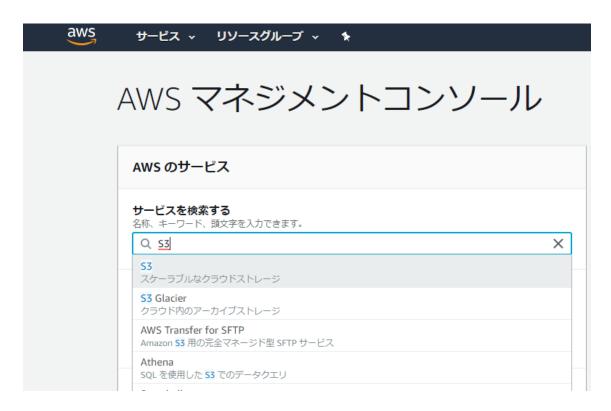
2014/1/1 1:00	2.538071066	client_0
2014/1/1 1:00	23.64864865	client_1
2014/1/1 1:00	0	client_2
2014/1/1 1:00	144.8170732	client_3
2014/1/1 1:00	75	client_4
2014/1/1 1:00	266.3690476	client_5
2014/1/1 1:00	6.359525155	client_6
2014/1/1 1:00	246.6329966	client_7

このハンズオンでは、この時系列データをもとに将来の電力消費予測を行います。Forecast では、時系列データであればなんでも処理が可能ですので、売り上げデータ、在庫消費データなどを用いることもできます。

# 3. S3 バケットの作成

Forecast は学習データを任意の S3 バケットよりインポートして利用するため、先ほどダウンロードした CSV ファイルを格納する S3 バケットを作成します。

3-1. 以下のように[s3]と入力して S3 のマネージメントコンソールにアクセスします。



3-2. 【バケットを作成する】を押します。



- 3-3. 【バケット名】に適当な名前を入れます。
- S3 バケットは AWS 全ユーザーの全バケットで一意である必要があるため、ある程度長い名前が必要です。
- リージョンは Forecast の作業を行うリージョンと同じものを指定してください。



- 3-4. すべてデフォルトで S3 バケットを作りますので画面右下の【次へ】を
- 2回押し、最後に【バケットを作成】を押してください。



3-5. 作成されたバケットをダブルクリックしてください。



3-6. 【アップロード】を押します。



3-7. 先ほどダウンロードした[electricityusagedata.csv]をドラッグ&ドロップで選択します。



3-8.画面左下の【アップロード】ボタンをおすとアップロード作業が開始され

# ます。



3-9. アップロードが完了すると以下の画面となります。



# IAM □ールの作成

Forecast が S3 ヘアクセスするために必要な権限を作成します。ここで作成された権限は、後ほど Forecast にアタッチされ、S3 ヘアクセスできるようになります。

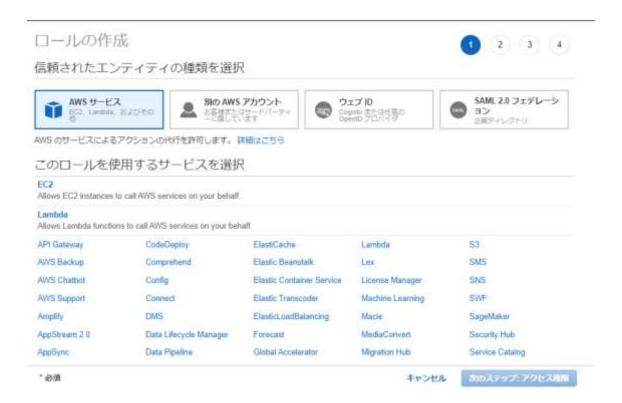
4-1. S3 と同じ要領で IAM のマネージメントコンソールへアクセスします。



4-2. 画面左のナビゲーションペインでロールを選択します。



4-3. 【ロールの作成】をおします。



4-4. 【このロールを使用するサービスを選択】から【Forecast】選び、【次のステップ】を押します。



4-5. 画面右下の【次のステップ】を押します。その次に表示されるタグの画面はそのまま何も入力せずもう一度【次のステップ】を押します。



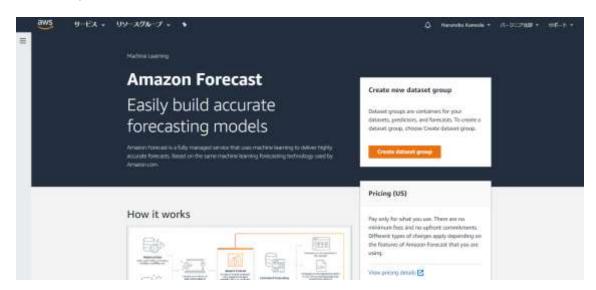
4-6. 【ロール名】に適当な名前を入力し【ロールの作成】を押します。



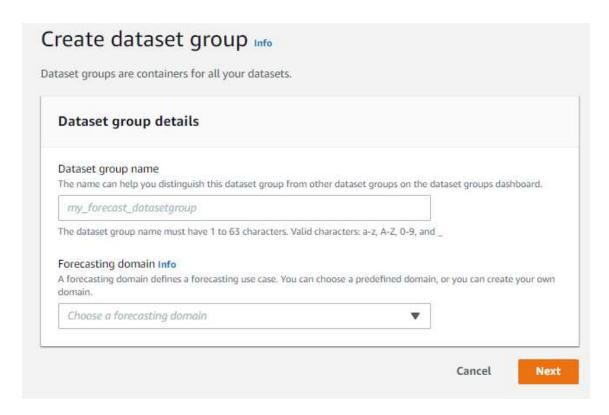
4-7. 作成が完了しました。作成されたロールをクリックして詳細画面に行きます。後ほどこのロールを Forecase に付与して、Forecast に対する S3 へのアクセス権限を付与しますので【ロール ARN】をメモっておいてください。



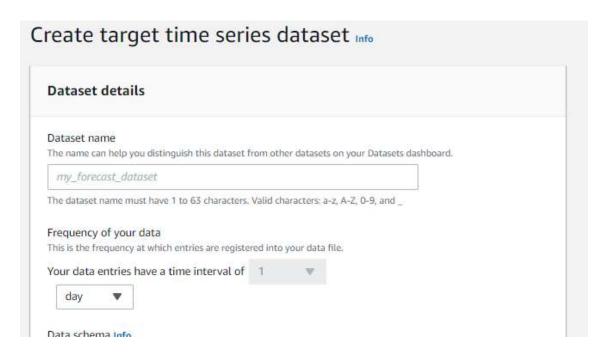
5. S3,IAM と同じように Forecast の画面にいきます。



5-1. 【Create dataset group】を押します。



5-2. 適当な名前を【Dataset group name】に入力し、【Forecasting domain】 を【Custom】に設定し【Next】を押します。



5-3. 【Dataset name】に適当な名前をいれます。【Frequency of your

data】は【hour】を選びます。(この値は学習させる元データの時系列間隔と合わせる必要があります。)

```
Data schema Info
To help Amazon Forecast understand the fields in your data, you must define the schema. Specify the attributes in the
same order as they appear in your CSV file. The pre-populated attributes below are required for the chosen domain.
    1 * {
    2 *
3 *
                    "Attributes": [
                         "AttributeName": "item_id",
    4
                         "AttributeType": "string"
    6
    7 =
                         "AttributeName": "timestamp",
"AttributeType": "timestamp"
    8
    9
   10
   11 *
                      {
                         "AttributeName": "target_value",
"AttributeType": "float"
   12
   13
   14
   15
                                                                                                            Next
                                                                     Cancel
                                                                                       Previous
```

5-4. 【Data Schema】の値を学習させる元データの並び順に合わせるため以下のように入れ替えます。

5-5. 【Next】を押します。



5-6. 以下の緑のバーが表示されれば、正しく Dataset が設定されています。



続いて Import の設定を行います。

5-7. 【Dataset import name】に適当な名前を入力します。【Timestamp format】はインポートする元データと合致した表記でなければならないですが、このハンズオンでは元データとデフォルト値が同じなのでそのままにします。【Custom IAM role ARN】に作ほどコピーした新しく作成した IAM Role の ARN を貼り付けます。

# Dataset import details Dataset import name The name can help you distinguish this dataset import from other imports on your dataset detail page. my\_forecast\_dataset\_import The dataset import name must have 1 to 63 characters. Valid characters: a-z, A-Z, 0-9, and \_ Timestamp format Info This is the format of the timestamp in your dataset. The format that you enter here must match the format in your data file. yyyyy-MM-dd HH::mm:ss IAM Role Info Dataset groups require permissions from IAM to read your dataset files in S3. Choose or create a role using this control. Enter a custom IAM role ARN custom IAM role ARN arn:aws:iam::YourAccountID:role/YourRole

5-8. 先ほどアップロードした学習用元データを以下の形式で【Data location】に入力し、【Start Import】を押します。s3://<バケット名>/<ファイル名>

(外部からアクセスできる URI とは異なりますので注意してください)

s3://bucket/path-to-your-data/		
our files must be in CSV format.	-	

5-9. Import が開始され以下の画面になります。



待ち時間の間に Personalize のハンズオンを行います。

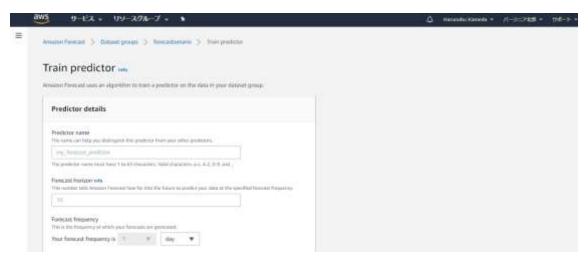
5-10. 以下のように【Active】と緑で表示されればインポート完了です。



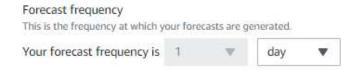
# 6. 学習

データのインポートが完了したので、学習を行います。

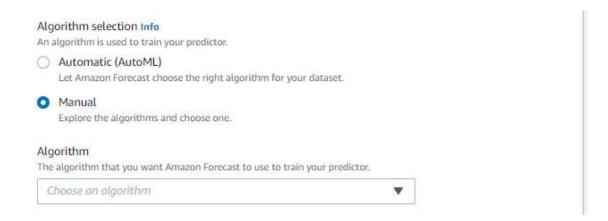
6-1. 【Train a predictor】の【Start】を押します。



6-2. 【Predictor name】に適当な名前を入れます。【Forecast horizon】は 予測を行う時間間隔をしています。このハンズオンでは 36(36 時間分)の 予測を作成するため、【36】と入力します。



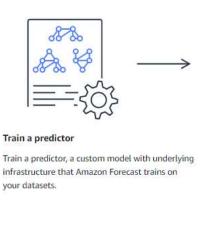
6-3. 【Forecast frequency】は元データと同じである必要があるため 【hour】を選びます。【Algorithm selection】は【Manual】のままとし 【Algorithm】は【ETS】を選びます。



6-4. 残りの値は全てそのままで【Train predictor】を押します。



6-5. 以下が表示されたら学習が開始されています。



Predictor training

待ち時間の間に Personalize のハンズオンを行います。

Create in

progress...

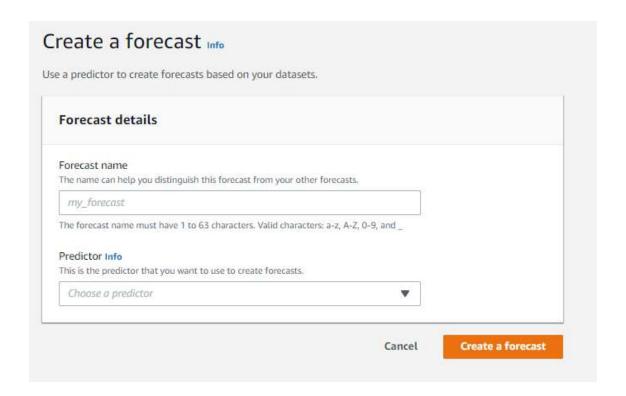
6-6. 以下のように【Active】と表示されれば学習が完了です。



# 7. 予測エンドポイント作成

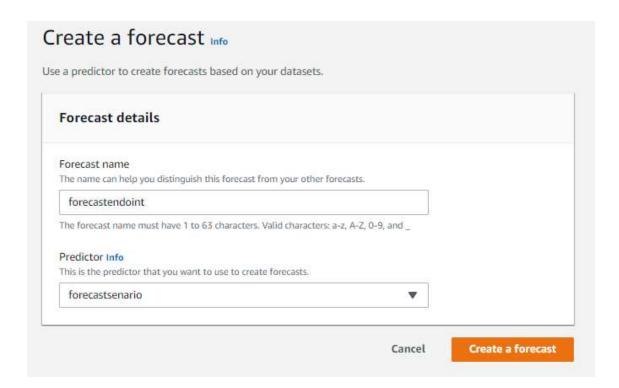
学習が開始したので予測を行うエンドポイントを作成します。

7-1. 画面右の【Generate forecasts】のところで【Start】ボタンを押します。

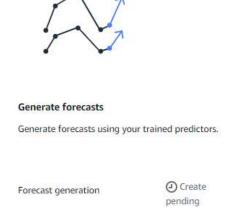


7-2. 【Forecast name】に適当な名前を入れます。【Predictor】のドロップダウンから先ほど学習環境につけた名前を選びます。

#何も表示されない場合は、cancel を押して再度やり直すと表示されます。



7-3. 【Create a forecast】のボタンを押します。



7-4. 予測エンドポイントの生成が開始されるので少しまちます。

待ち時間の間に Personalize のハンズオンを行います。

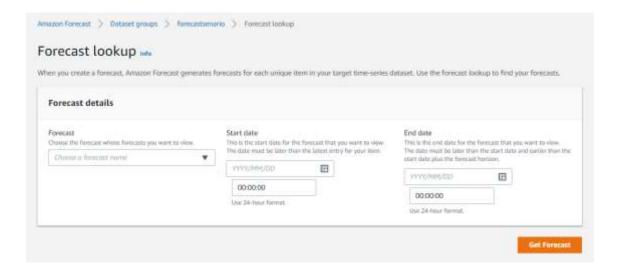
以下の表示になれば完了です。予測ができるようになりました。



# 8. 予測を行う

以上の手順で学習済データから予測を行うことができます。

【Look up Forecast】を押します。

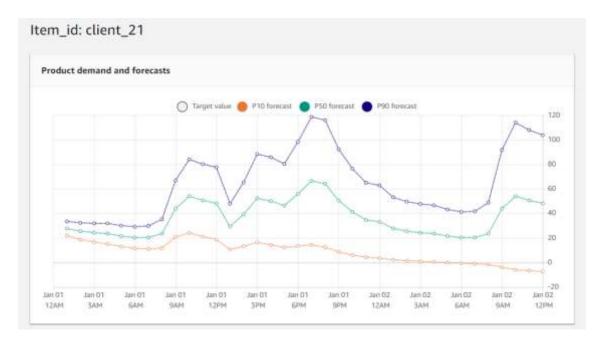


- 8-1. 【Forecast】に先ほど作成したエンドポイントの名前をドロップダウンから選びます。
  - [開始日] **2015/01/01** と入力します。デフォルト時間である 00:00:00 のままにします。
  - [終**了日**] **2015/01/02** と入力します。時間を 12:00:00 に変更します。

【Value】には学習元データに入っているクライアントの ID を入力します。

(例:client\_2)

8-2. 【Get Forecast】 を押すと以下のように予測がグラフで出力されます。



P10、P50、P90の数値は、それぞれ 10%、50%、90% の確率で、実際の

需要量が含まれる値になります。90%の確率でその範囲内(値より下)に入る、という意味になっています。P××の数字が大きくなれば大きくなるほど予測がその値に収まる確率は高まるものの、ブレ幅が大きくなっていきますので、まずはP50の値を用いることをお勧めしています。